

# 学校自己評価とは

## 1 学校自己評価のねらい

よりよい学校づくりを目指して

学校教育に携わるすべての教職員は、「よい授業をしたい」、「目を輝かせて取り組む子どもたちの姿を見たい」、そして、何より児童生徒が喜んで通う「よりよい学校をつくりたい」と願っています。

特色ある教育課程づくりも、「分かる授業」を目指した日々の教育実践も、保護者や地域の人々に開かれた学校づくりも、すべて、この願いを実現するための教育活動です。

学校自己評価は、この「よりよい学校づくり」のために行う活動です。



### 学校自己評価とは

教職員が、学校の教育目標とそれに基づく教育活動その他の学校運営の状況について自ら評価し、その結果を公表するとともに改善に生かす活動。

#### 学校自己評価は、教職員が自ら行います。

教職員は、よりよい学校づくりのために――

- 明確な目標と、目標に対する共通理解を持つことができます。
- 教育活動、学校運営の成果と課題を明らかにすることができます。

#### 児童生徒、保護者や地域の人々にも協力していただき、結果は公表します。

児童生徒、保護者、地域の人々は――

- 学校の目標、教育活動や学校運営をより深く理解することができます。
- ともに学校をつくっていかこうとする意識や態度を持つことができます。

つまり、学校自己評価を行うことにより、特色ある学校づくり、開かれた学校づくりを推進し、教職員や児童生徒の願いを実現することができるのです。

では、これまでの、各学校の自己評価はどうだったのでしょうか。

## 2 これまでの学校自己評価

これまでも、学校では、自己評価を行ってきました。

たとえば、文化祭、クラスマッチ、読書週間、研究・公開授業…。

各学校では、一つ一つの教育活動が終わるたびに、職員会等でその成果と課題を検討してきました。

この評価には、「教育活動、学校運営のほとんどを網羅している」「成果と課題がきちんと話し合われている」などのよい点はありましたが、課題もありました。

### 課題

- ・評価項目と評価の観点が必ずしも明確ではなかった。
- ・評価者が教職員に限られていて客観性に欠け、結果が保護者や地域の人々などに公表されていなかった。
- ・反省が次年度の改善に十分生かされていない面があった。

## 3 これからの学校自己評価

改善に生きる評価とは

学校自己評価は、よりよい学校づくりのために、教育活動や学校運営の成果や課題を明確にし、確実に改善していくものでなければなりません。

### これからは

毎年、確実に評価が機能し、課題が克服されていく「学校自己評価システム」をつくる必要があります。

では、「学校自己評価システム」とは、どんなものなのでしょう？

次のページをご覧ください。

### MEMO

#### 答申、省令における「学校自己評価」

○学校の教育目標とそれに基づく具体的教育計画、またその実施状況についての自己評価を、それぞれ、保護者や地域住民に説明することが必要である。

(中央教育審議会答申・平成10年9月)

○具体的にどのような項目をどのような方法で評価するかについては、それ自体が各学校の特色になるとも考えられ、各学校や設置者が地域や学校の実態に応じて適切に工夫する必要がある。

(教育課程審議会答申・平成12年12月)

○小学校は、その教育水準の向上を図り、当該小学校の目的を実現するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するよう努めるものとする。

(小学校設置基準第二条(中・高も同様)・平成14年4月1日施行)